

21春闘のたたかいから、次のたたかいへ!

JR東労組の21春闘のたたかいを総括し、厳しい現実を受け止めつつ、22春闘を含めたこれからのたたかいに向けて運動をつくり出していくために、バス関東本部、バス東北本部は分会代表者会議を開催し、ステーションサービス協議会は幹事会で議論をしました。

バス関東本部

3月29日の第3回交渉で示された会社回答は「ベアゼロ」に留まらず、4分の2での定期昇給実施という、会社発足以来初の定期昇給にまで踏み込んだ内容でした。私たちの要求からはかけ離れた回答に怒りを覚え、納得感に欠ける回答に対し、改めて、バス職場で働く組合員の声を受け止めるべきと強く訴え、席上妥結はせず回答を持ち帰り、緊急代表者会議を開催しました。

会社回答に対し、組合員からは「親会社そのままの乾いた回答だ」「バスの組合員の切実な現実を親身になって考えていない」など当然ながら多くの怒りの声がありました。今春闘は、昨年2月の組織分裂の中で、職場からの激励を受け、最後まで精神的に交渉に臨んできました。しかし、会社の頑なな姿勢を變える事は出来ませんでした。その組織現実や、経営状況、春闘情勢、そして何よりも組合員の雇用と利益を守り、家族を守るために今後どうすべきか、バス関東本部内で喧々囂々の議論を行いました。そして、バス

関東本部の問題意識と今後の考えについて分会代表者との議論を繰り返して行い、苦渋の判断でありましたが3月31日に妥結しました。

バス関東本部は4月14日、全分会代表者会議を開催し「21春闘総括」と「今後のたたかい」について議論しました。春闘総括では、バス関東本部に向けた厳しい意見もありました。職場の問題では、些細な事故や苦情でも乗務を降ろされている実態等が明らかになりました。本音の意見を受け止め、今回の会議を一つの節目とし、今後のたたかいについて議論を深めました。

今春闘においては「社員の安定的な社会生活の実現のためにも、今後も雇用の維持を大前提としていく考え」との会社回答を引き出し協約化できませんでした。要求内容に対する会社の回答や、組合員の切実な声に切れない現実を踏まえれば、敗北と言わざるを得ません。しかし、昨年2月の組織分裂からの組織問題を乗り越え、厳しい21春闘を本音の議論や、春闘学習会などにより自らの要求に高め組織の強化に繋げてきました。バス関東本部は更なる組織強化・拡大をめざして運動をつくり出します。

議事録確認

「2021年度賃金引き上げ等に関する申し入れ」(JR東労組バス関東第6号2021.2.26)に関する交渉過程で、「別紙」のとおり確認した。

2021年4月7日

ジェイアールバス関東株式会社
総務部長 色川広司 印
東日本旅客労働組合JRバス関東本部
事務長 三瓶嘉則 印

- (組合) 組合員の生活が厳しい現実を念頭に置き、雇用を守ることを大前提とすること。
- (会社) 現下の大変厳しい経営状況と今後の経営見通しからも、社員には引き続き様々な困難を強いられることにはなるが、社員の安定的な社会生活の実現のためにも、今後も雇用の維持を大前提としていく考えである。

バス東北本部

バス東北本部は、今春闘では「今回ベアアップがなければ4年連続のベア・ゼロ」ということを改めて強調した上で、私たちの高まる労働力の価値に対して最大限評価を「十分な人への投資」を行うためにはベアアップは必須条件であり、物価上昇と消費税増税等がある中でも生活維持を向上させるために賃金引き上げが必要であることを強く主張してきました。

しかし、3月29日に会社から示された回答は、ベアアップを行わないどころか定期昇給を所定昇給額の4分の2とするというものでした。JR東日本会社とバス関東会社の回答と全く同じ内容であり、バス東北の社員のことを全く考えていないと捉えざるを得ない内容でした。バス東北会社は交渉の中で「本体の回答を受けて検討している」と言っていました。バス東北本部として「本体は本体、バス東北はバス東北であり、経営状況、賃金体質、社員の意識からしても本体とバス東北

では全く違う」と繰り返し訴えてきたにもかかわらず、示された回答、会社の姿勢に対して到底納得がいかないため、席上妥結はせず持ち帰り分会代表者と議論することになりました。回答を示されて以降、バス東北本部は全職場の全組合員から会社回答について意見集約をし、4月12日に分会代表者会議を開催し、21春闘について議論を行いました。

代表者会議では、「組合員の思いが金額などの数字として実らなかつたことに関しては敗北と言えぬが、この交渉の中から見えた会社の姿勢をしっかりと胸に刻み、各職場で発生する諸問題に向き合わなければならない」「効率化を求め過ぎるあまり乗務員の負担が増えたという声が増しに大きくなっている」「コロナ禍で一時金も減り生活が苦しい中にも関わらず賃金の水準を下げることで経済的にも負担を強いている現実、社員の生活より本体やバス関東に合わせる姿勢には、改めて怒りがこみ上げる」などの組合員の声が報告されました。そして、今回

ステーションサービス協議会

ステーションサービス協議会は4月16日に幹事会を開催しました。

21春闘総括では、第3四半期決算は、営業収益は対前年110.3%、四半期純利益は対前年390.4%と増収増益であるにもかかわらずベアゼロという会社回答に対し、職場の声として「定期昇給(昇給係数4)」を確保できたのは安心したとの声がある一方、会社に職場の現実が伝わっていないと感じる。「回答書では、増収増益の事には多くは触れず、事故・事象のことが記載され、その事を理由として回答されているように感じる」「これまでの労働条件などの議論の時は、本体が黒字の時、独立会社だから本体

2021春闘妥結についての青森分会声明文

4月12日の分会代表者会議での議論を踏まえ14日に妥結しました。組合員の期待に応えられなかったのは敗北と言わざるを得ませんし大変申し訳なく思っています。しかし、労働組合として皆さんの思いを無視して簡単に妥結することはできませんでした。そして、定期昇給にまで踏み込む今春闘の回答により会社は黒字化に向けて、社員の生活よりも会社の存続を優先する施策重視という姿勢が明らかになりました。今後の夏季手当はもちろん、最悪は雇用まで踏み込む恐れもあります。それを防ぐためには組織拡大が急務です。このことについて分会代表者会議で認識を一致できたことは成果と捉えています。妥結を先延ばしにしても回答が変わる可能性が低い中において、労働組合として駄目なものは駄目だという姿勢を示すことで、次なる「たたかい」へと繋げていかなくてはなりません。今春闘の課題は明確であり、組織が弱くなれば会社経営陣の思惑通りになるということで、そこには皆さんの思いは全く入っていません。このままでは賃金だけでなく労働条件、労働環境にも影響を及ぼしかねない事態となります。こうした現実には危機感を持ち、今後も職場からの「たたかい」を強化し、再加入の取り組みを強化する必要があります。厳しい組織状況の中ではありますが、JR東労組バス東北が丸となり組織強化拡大へと繋げていきましょう。

2120年4月16日
JR東労組バス青森分会

今回のたたかいでは、労働者ひとり一人の小さな声を結集し届ける労働組合として、バス東北本部は21春闘をたたかい抜きました。全組合員が一枚岩の議論を会社施策に引き合う教訓となればならぬことを参加者全員で確認し、次なるたたかいへと繋げるために4月14日、妥結の判断に至りました。これからはバス東北の組合員は「新生JR東労組運動宣言」のもと、JR東労組とバス東北会社の未来を守り抜くために、更なる組織強化・拡大を実現します。

と同様にならないと言われ、赤字になるとグループ会社だからと言われても納得感に欠ける」と出されました。また、職場の要員不足や要員配置の問題、コロナ禍における新入社員の人材育成の課題についてなどの職場現実を出し合う中でも、改めてコロナ禍においても奮闘している組合員の労働実

感に対し、増収増益にも拘らず「ベアゼロ」回答は納得感に欠け、怒りや悔しい想いがあると出されました。併せて示された「初任給引き上げに伴う経過処置の実施について」については、「会社から詳しい説明がされていない。対象者も理解していない社員もいる。対象者の範囲に不満の声もある」との意見がありました。自分たちの賃金や、人事・賃金制度を捉え直し、問題意識を高める取り組みをつくり出す

必要性を一致してきました。21春闘の悔しさをバネに、夏季手当要求つくりと、要求実現に向けて取り組んでいくこと。そして、労働条件の維持・向上のため、ステーションサービス協議会の更なる強化・拡大を目指していく事を全体で確認しました。

妥結以降も悔しさが残る状況で4月16日を迎えました。2名の仲間が新たにJR東労組に加入しました!加入した2人からは「入社してからいくつかの労働組合の取り組みを見てJR東労組に加入しようと思った」「コロナ禍の職場問題

No.134
発行 2021.4.16
東日本旅客労働組合
ステーションサービス協議会

ようこそ!
JR東労組へ!

2名の仲間が
加入しました!

労働条件の向上に向けて、共に頑張ってください!!
JR東労組に結集しよう!!

仲間と共にJR東労組の組織強化・拡大を実現し、労働組合らしく堂々と進んでいこう!